

画期的なフロスで誰でも簡単に！ 歯間清掃を患者さんの生活に定着させましょう



フリーランス歯科衛生士
宮本 さくら

歯科衛生士にとって、TBIの悩みは尽きません。どの患者さんにも同じようなことを言ってしまういたり、熱心に指導しても言うとおりにしてもらえないなど・・・患者さんの心を動かすTBIはなかなか難しいですね。それならば、少し考え方を変えてみませんか。

患者教育がなかなかうまくいかない原因の一つとして、ブラークしかみえていないということがよくあります。『TBI=ブラッシング指導』と考えブラッシング技術だけを教えても、患者さんの行動や習慣はそう簡単には変わりません。どうすれば患者さんの生活に定着させることができるか、患者さんの日常生活を視野に入れ、個人のライフスタイルに合わせたケアを提案すべきです。『フロスも使ってください』と必要性を訴えるだけでは患者さんには響かないでしょう。磨く意欲のない人に磨き方を一生懸命指導したところで、自分事として私たちの説明に耳を傾けてはもらえません。

私もかつては患者さんに『1日1回、フロスや歯間ブラシで歯と歯の間をきれいにしてください』と、正しいと思うことをそのまま言い続けていました。自分でできていないことを無理に押しつけ、できていない部分や改善すべき点にばかり目が行きがちでした。PCRが20%以下だから大丈夫！患者さんがやっているから大丈夫！と安心するのではなく、その患者さんにリスク部位をしっかりと把握していただき、そのリスク部位のブラークがきちんと除去できているかというところに注目するようになってから私のケアの提案が変わっていったように思います。

今は患者さんに多くを求めず、どうすれば簡単に毎日実行しやすいかを考えるようになりました。

歯ブラシで磨ききれないコンタクトポイントや、歯周組織の中からブラークを除去できるフロスは欠かせないものですが、指に糸を巻くタイプのフロスや糸ようじでは臼歯部が難しくして前歯しか通されていないケース、やらなくなってしまいうケースが少なくありません。

私がこのガムチャックスを使って感動したのは、指に糸を絡ませる必要がないので指が痛くならないこと。そして、口の奥の方に指を突っ込まなくても最後臼歯まで簡単に糸を通せることです。

実際に使ってみると歯のカーブに沿わせながらポケットの中まで簡単に挿入することができ、しっかりとブラークが掻き出されていることが分かります。ブラーク除去の難しい矯正中の患者さんでも、先を矯正用に使っていただくワイヤー装着したまま上からフロスが通せます。子供でも簡単に使えて、ブラークが良く取れスッキリする！これならずっと使い続けられ、患者さんのモチベーションアップに役立つと確信しました。今では私のフロス指導に欠かせないアイテムです。

患者さんには多くのことを伝えるよりも“気づき”を与えて、とにかく楽しく意欲がわくようなアプローチを心がけたいです。



ハンドル後方のボタンを押すことで、チップを飛ばして外すことができる。簡単で楽しいアイデアは、フロス使用のモチベーションが上がる。



叢生部の隣接面や隅角部はハブラシだけでブラークを落としきることは困難。ポケットの中まで歯の湾曲に沿わせて挿入することができる。



矯正ブラケット装着中の子供さん。矯正用を使えば、フックがワイヤーの後方に入り効果的にフロッシング可能。



ハンドルを使用するスリムチャック型フロスは、指を口腔内に突っ込まなくても最後臼歯部まで楽々と通せる。